



人と企業に選ばれるまちを目指す

市長戦略最前線

戦略から実動へ

▶市長戦略の
詳細はこちら



▶広報すその
オンラインは
こちら



駅周辺整備課 994-1274

にぎわいづくりプロジェクトチーム

裾野駅・岩波駅周辺のまちづくりへの提言を行う

市では、市の玄関口になるJR裾野駅と多くの市内企業の最寄駅になるJR岩波駅をまちづくりの拠点に位置付け、両駅周辺に都市機能を集約するコンパクトシティの形成を進めています。多様な世代が交流する拠点整備事業だけでなく、駅周辺の魅力や生活利便性の向上にも取り組んでいます。

令和7年度には、拠点整備の方向性に一定の目処がつかことから、都市基盤整備だけでなくソフト事業を含めた施策の提言を受けるため、市の庁内横断メンバー11人で構成した「にぎわいづくりプロジェクトチーム」を設置しました。

プロジェクトチームの取り組み

プロジェクトチームでは、にぎわいを「人口・人流・経済の3つの密が高まった状態」と定義しました。ヒアリングや先進事例の研究を行い、駅周辺のにぎわいを提言していきます。

8月29日(金)には、駅西公園の市場経済性価値調査を実施します。これは、ソフト事業を含めた交流施設の整備やエリアマネジメントの検討にあたり、駅西公園の市場経済性価値を調べるものです。民間事業者の協力を得てイベントを実施し、事業者・来場者のアンケートを行います。※このイベントは自由に参加できます。



すくすく成長中! 裾野っ子

市内に住んでいる
3歳0カ月までの
子ども紹介!

誕生月の2カ月前までに右記の2次元
コードを読み取り、オンラインフォー
ムから申し込んでください。



あき
佐々木 秋綺さん
2歳10カ月
岩波



つむぎ
高橋 月紬さん
2歳11カ月
矢崎



はやと
池谷 颯人さん
2歳10カ月
麦塚



きはる
岩田 吉玄さん
2歳10カ月
石脇



ゆめ
戸田 優芽さん
2歳11カ月
岩波



9月図書館だより

開館時間／火・水・土・日曜日 9時～17時／木・金曜日 9時～19時
休館日／1日(月)・8日(月)・16日(火)・22日(月)・25日(木)・29日(月)



市立鈴木図書館 992-2342 文化センター図書室 993-9305

新刊紹介



一般書

この世は生きる価値がある

著者：長谷川 まりる
出版社：ポプラ社

ひとつの魂が、急死した少年「高梨天山」の体に入り込み、息を吹き返しました。彼は天山としての生活を謳歌するうち、人生の複雑さを理解し始めます。生きることへの諦めや苦難のそばに、必ず存在する希望を描いた一冊です。



児童書

ナヌークの贈りもの

著者：星野 道夫
出版社：小学館

オーロラに誘われて夢の世界に入った少年は、ナヌークと出会い真の狩人に必要な自然界のおきてについて教えられます。極北を撮り続けた星野道夫によるシロクマの写真と、北米先住民の神話をモチーフにした物語の写真絵本。



行事予定

市立鈴木図書館

親子おはなし広場

時 2日(火) 10時30分～11時

おはなしの会

時 6日(土) 11時～11時30分

ベビー&キッズタイム

時 10日(水) 9時～12時

えほんのじかん

県立裾野高等学校保育健康系列3年生が、絵本の読み聞かせを行います。

時 ①9月11日(木) ②9月18日(木)

9時30分～10時

※プログラムは各日異なる内容

所 2階展示室

対 未就学児とその保護者

申 不要

文化センター図書室

おはなしの会

時 13日(土) 11時～11時30分

親子おはなしの会

時 23日(火) 10時30分～10時50分



すそのびと

Susonobito No.74

2025静岡県写真館協会 芸術写真コンテストで県知事賞を受賞

さとの
大庭 学さん
45歳



「2025静岡県写真館協会 芸術写真コンテスト」で最高賞の県知事賞を受賞した大庭学さん。このコンテストは県写真館協会が主催するコンテストで、県内にある写真館を持つ写真家が参加をします。受賞作品「青の静寂・赤の情熱」は、メジャーデビューを控えたミュージシャンを撮影した一枚。青と赤を基調とした独創的なポートレート作品で、高い技術力が評価されました。

大庭さんは大学卒業後14年にわたり他写真館で経験を重ね、8年前に家業へ戻り、メインフォトグラファーとして活動しています。学校のアルバムや七五三、家族写真など、人生の節目を記録しているほか、最近では終活の写真の依頼も多くあるとのこと。「10年後20年後に見返したとき、その人らしさが伝わる一枚を残したい」と、被写体の「らしさ」を写真に収めることを大切にしていると話しました。

「写真館では芸術的な写真も提案しているので、ぜひ写真館に足を運んでほしいです。そして、自分しか撮れない写真を追求したい」と語る大庭さんの姿勢に、写真への深い愛情と地域に根差した写真館の誇りを感じました。

